

## 活動記録書

開催日： 令和8年4月2日(木) 天候 曇り時々雨	開催テーマ： 逗子・葉山に三浦一族の伝承を探る
開催場所：逗子・葉山	記入者：松崎 寛
参加人数：会 員 19名 ビジター 0名 計 19名	
<p>実施内容（実施の項目、方法、効果・成果、宿題 等）：</p> <p>コース：逗子葉山駅～仲町橋～徳富蘇峯碑～六代御前墓～富士見橋～鏡摺断層～鳴鶴公園（鏡摺館）～旗立山登り口・日影茶屋～海宝寺～葉山マリーナ（トイレ休憩）～ 鈴木三郎助碑～清浄寺～相福寺～長徳寺～森戸海岸～森戸神社（トイレ）（解散）～森戸神社バス停</p> <p>曇り空に時折雨が混じるなか、「逗子・葉山に三浦一族の伝承を探る」探訪に出発。逗子葉山駅近くを流れる田越川に架る仲町橋付近には満開の桜が見頃になっていた。上流の延命寺には、北条早雲に敗れた三浦道香主従の墓があるという。道香は三浦氏最後の当主・三浦道寸の義弟にあたる。</p> <p>仲町橋を過ぎると、徳富蘇峯（猪一郎）の顕彰碑がある。明治から昭和戦後期を代表する言論人である蘇峯の足跡が、ここにあることに驚く。碑にある「俺の恋人誰かと思う神の造りた日本国」は、蘇峯らしさを感じさせる。蘇峯と弟の蘆花は逗子を愛し、蘆花は「不如帰」を逗子で書いた。</p> <p>六代御前墓へ。平維盛の子・六代御前は 12 歳で捕らえられ、文覚上人の嘆願により助命されて弟子となった。しかし頼朝・文覚の死後は後ろ盾を失い、29 歳で田越河原にて処刑された。田越川が「御最後川」とも呼ばれるのはこの伝承による。源平の争乱の余韻が残っている場所だ。</p> <p>田越川に架かる富士見橋付近は、かつて西浦賀道の逗子中継起点で、明治期までは田越橋があった。洪水で流失した後は渡し舟の時代もあったという。現在の富士見橋は昭和 63 年に造られた。</p> <p>鏡摺（あぶすり）断層では、不整合を示す露頭が間近に観察でき、縦横に交わる地層が印象的だった。隣接する鳴鶴公園（鏡摺館）は、三浦義明の三男・大田和義久の居城跡と伝わる。ここには頼朝の愛妾・亀前が匿われ、頼朝が険しい道を通った際に鏡を摺ったことから「鏡摺」の名がついたという。大河ドラマ「鎌倉殿の 13 人」で描かれた政子による亀前宅打ちこわしの舞台でもある。</p> <p>旗立山は、頼朝の拳兵に加わった三浦義澄が、小坪合戦の際に旗を立て士気を鼓舞したことに由来する。義澄の館があったとも伝わり、室町期には北条早雲と争った三浦道寸が戦況を望んだことから「軍見山」とも呼ばれた。日影茶屋（旧・日陰茶屋）前を通り、神近市子が大杉栄を刺した「日影茶屋事件」を思い起こす。続く海宝寺は浄土宗の寺。本尊は聖観世音菩薩で、堂前には三途の川で亡者の衣服を剥ぎ取る老婆である脱衣婆（だつえば）像が立つ。三浦半島では珍しい石造。</p> <p>葉山マリーナで小休止。ここは「味の素」創業者・鈴木三郎助の胸像がある。かつて海藻から酵母を製造する味の素の前身工場があり、葉山マリーナは最初の管理者は味の素。今は京急が運営しているが、意外な歴史のつながりに驚かされる。</p> <p>清浄寺は天文 10 年（1451）開山の浄土宗寺院で、本尊は阿弥陀三尊立像。相福寺は光明寺から秘仏「十夜仏」を賜った寺。長徳寺は鎌倉円覚寺末の臨済宗寺院で、北条高時が南山土雲禅師に開かせた。行基作と伝わる毘沙門天像は憤怒の形相が迫力を放ち、三浦義澄の守護神とされる。</p> <p>森戸海岸を抜け森戸神社へ。頼朝が源氏再興を祈願した三嶋明神を勧請した社で、裏手の崖に立つ柏槨は、頼朝参拝の折に飛来した種子が芽吹いたと伝わる「飛柏槨」。和田義盛が「千貫の価値がある」と称えた松も、江の島と富士を望む景観を含めての言葉だったのだろう。</p> <p>駐車場近くの広場で解散。森戸神社バス停より帰途に着いた。</p>	
参加者の状況・意見など	
天候はもう一つであったが、全員無事歩き通した。逗子、葉山の地を歩き、改めてここは自然のなかに歴史が息づいてことを感じた。	
<p>次回の予定：令和8年5月7日（木）10時 京急田浦駅</p> <p>テーマ：「失われゆく田浦の近代化遺産」と「三浦三十三観音・景德寺」を巡る</p>	

